

自己評価報告書(最終報告)

報告者

現代教育課題総合コース
／谷村 千絵

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

科研費については、過去に何度か申請したがまったく認めていただけないので、科研費向けの研究テーマを設定から練り直す必要があると感じている。
個人研究ではなく複数の研究者との共同研究も視野にいれて、研究テーマを精選したい。

2. 点検・評価

①エリクソン研究の見直しに着手し、大人と子どもがかかわる教育の場を「アリーナ」ととらえるエリクソンの構想について研究を進め、関西教育学会で個人発表を行った(11月 於奈良女子大学)。またその成果の一部を、関西教育学会年報第37号に投稿し、掲載が決定した。(2013年6月刊行予定)なお、アリーナ概念の検討を通して、エリクソン理論の批判的とらえなおしが可能であるとの予測ができたので、研究を継続・発展させることにした。

②防災教育について、ゲームという手法での取り組みについて研究をはじめ、「教育実践フィールド研究」でコース教員、学生とともに実践を踏まえて研究を進めた。鳴門市内の3つの小学校で実践したそれぞれの防災教育の授業では、ゲームという手法の有効性を裏付ける結果が出たので、2013年6月の国際学会での共同発表を申請した(日米教師教育会議JUST EC 於アメリカ合衆国)。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

現代教育課題総合コースでは、所属教員の先生方のパンフレット作成・配布、日々の学生指導など、ひとかたならぬ努力の成果が毎年の定員充足という状況に表れていると考える。とくに、総合では、先輩の話をきいて入学を希望してくる学生が毎年ほぼ必ず存在する。そのため、日々の学生指導において、やる気のある学生にはどのようなレベルからでも親切懇意に指導し、やる気のない学生にも、やる気がでない原因が本人の外部にあればそれを取り除けるよう、学生とともに努力することが重要であろう。
そうした教員と現学生の努力、切磋琢磨により、コースの教育力が高まることは、受験希望者の安定的確保につながると考えている。

2. 点検・評価

小西教授の指揮のもと、コース紹介パンフレット用の写真を新しく撮り直し、学生に教員の似顔絵を依頼するなど、オリジナルのある新しいコースパンフレットが仕上がった。
昨年度の修了生が相談に来たり、現在通学中の学生を頼って入学を検討する学生がいたり人とのつながりを感じるが多かった。
コース教員はみな、とてもオープンできめ細やかな姿勢で学生指導に臨んでいるが、そうしたことの結果であるならばこれはとても嬉しい手ごたえである。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

授業やゼミにおいて、学生のニーズを踏まえながら、親切丁寧な指導を心掛ける。とりわけ、コースの修士論文構想発表会ならびに修士論文発表会は、新形式を取り入れて2年目なので、よりよいものになるよう、努めたい。

2. 点検・評価

授業やゼミにおいて、学生の一人ひとりのニーズを踏まえて、親切丁寧な指導を心掛けた。コースの修士論文構想発表会については、昨年の新しい形式を踏襲しつつ、反省点を踏まえて、リニューアルして行い、好評をえた。修士論文発表会は、新形式を取り入れて2年目で、滞りなく開催された。

II-2. 研究

1. 目標・計画

コース行事としての修士論文構想発表会をグループセッションという新形式にして2年目である。1年目に引き続きアンケート調査を行い、結果をコース共同の教育実践研究として発表する。
個人研究においては、エリクソン研究とメディア研究を踏まえて、「大人の現在(仮称)」に関する論考をまとめ、学会発表、ジャーナル投稿を目指して努力する。
科研費申請を検討する。

2. 点検・評価

コース行事としての修士論文構想発表会をグループセッションという新形式にして2年目であるが、1年目に引き続きアンケート調査を行った。
個人研究においては、「世代サイクルのアーリーナ」に関する論考をまとめ、学会発表を行い、ジャーナルに論文を投稿した。防災教育の取り組みでも、ゲームという観点から面白い研究成果がでたので、国際学会発表を申請し、受理された。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

担当する委員会業務を全うする。

2. 点検・評価

コース内での会計係りを担当。
学術研究推進委員担当。
大学機関別認証評価のWGを担当し、報告書の編集・執筆作業を分担した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

JUSEC(日米教師教育会議)が7月に本学にて開催されるので、準備委員として業務を担当する。
防災教育をテーマとして「教育実践フィールド研究」を担当する予定なので、地域の学校や社会に貢献する内容としたい。

2. 点検・評価

JUSEC(日米教師教育会議)が7月に本学にて開催され、準備委員として業務を担当した。学会は成功のうちに無事終了した。
防災教育をテーマとして「教育実践フィールド研究」を担当し、地域の学校や社会に貢献する内容を目指して指導した。
鳴門市内の3つの小学校でそれぞれの学校のニーズにあった防災教育の授業を行ったが、黒崎小学校では学校開放デー(授業参観日)に一年生を対象に授業を行い、保護者の方にも授業をみて頂いた。好評を頂き、後日、2年生にも授業を行った。
教育実践フィールド研究では、本学施設課の協力を得て、鳴門教育大学が地域住民とともに行う防災訓練に、授業として参加し、救助袋、はしご車、AED、起震車、水消火器、イーバックチェアーなどの体験を地域の方と一緒にに行った。参加した学生にも好評であった。(時間割上、授業として参加しなければ学生は参加できないような仕組みになっている。学生の参加率を上げる工夫がないか、検討したい)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)